

福島第一原子力発電所の状況

2016年1月18日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (1/18 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	給水系：約2.6 m ³ /h	16.3	1.93 kPa g	A系： 0.03 vol %
		炉心スプレイ系：約1.9 m ³ /h			B系： 0.01 vol %
2号機	淡水 注入中	給水系：約1.9 m ³ /h	21.0	5.35 kPa g	A系： 0.01 vol %
		炉心スプレイ系：約2.4 m ³ /h			B系： 0.00 vol %
3号機	淡水 注入中	給水系：約2.0 m ³ /h	19.4	0.29 kPa g	A系： - * vol %
		炉心スプレイ系：約2.3 m ³ /h			B系： - * vol %

*2号機および3号機原子炉格納容器ガス管理設備については、信頼性向上を目的に、配管の一部に使用しているフレキシブルチューブおよび樹脂製ホースの鋼管化作業を行う。当該作業では、必要に応じて設備の停止となるので、設備停止中は特定原子力施設に係る実施計画「特定原子炉施設の保安」(以下、「実施計画」という)第1編第24条の表24-1に定める運転上の制限「原子炉格納容器ガス管理設備の放射線検出器が1チャンネル動作可能であること」を満足しない状態となることから、実施計画第1編第32条第1項(保全作業を実施する場合)を適用し、計画的に運転上の制限外に移行して作業を実施する。3号機原子炉格納容器ガス管理設備については1/18 9:31から作業を開始。これに伴いデータ欠測。

< 2. 使用済燃料プール(SFP)の状況 > (1/18 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	SFP 水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	11.4
2号機	循環冷却システム	運転中	28.3
3号機	循環冷却システム	運転中	18.5
4号機	循環冷却システム	運転中	7.5

各号機 SFP および原子炉ウェルヘヒドラジンの注入を適宜実施。

< 3. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (1/18 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種 除去設備 (ALPS)	増設多核種 除去設備	高性能多 核種 除去設備
運転 状況	停止中 ^{*1}	運転中 ^{*1}	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	ホット 試験中 ^{*2}	ホット 試験中 ^{*2}	ホット 試験中 ^{*2}

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。 *2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

< 4. その他 >

- ・2014/6/2～ 陸側遮水壁工事を開始。
- ・2015/4/30 12:00～ ブライン(不凍液)循環設備の健全性や地下水の流れによる影響等の確認のため1～4号機建屋の山側(18箇所)を対象に試験凍結を開始。
- ・2015/5/27～ 構内で今後使用しないフランジボルト締めタイプのRO濃縮水貯槽の解体作業を開始。
- ・2016/1/13 12:39 敷地境界付近のモニタリングポストNo.7近傍(敷地南側)に設置しているダストモニタにおいて、ダスト放射能濃度の上昇を示す「高警報(警報設定値: $1.0 \times 10^{-5} \text{Bq/cm}^3$)」が発生。
14:06 当該モニタの「高警報」が復帰し、警報発生前の値に戻ったことを確認。当該モニタリングポスト以外の発電所構内のダストモニタおよびモニタリングポストの指示値に有意な変動はない。
12:40 時点の風向および風速は、風向:南南東、風速:4.3m/s。なお、風向は11:20から南南東であり、

発電所方向に向かって吹いていたものであることを確認。当該モニタの「高警報」が発生した際に使用していたろ紙を回収して分析した結果、セシウム134及び137(天然核種以外の核種)が検出されたが、それ以外の核種は検出限界値未満だった。

< 回収したろ紙の分析結果(速報値) >

セシウム134: $2.0 \times 10^{-6} \text{Bq/cm}^3$ セシウム137: $8.9 \times 10^{-6} \text{Bq/cm}^3$

当該ダストモニタの「高警報」が発生した原因について、自然条件や構内外の作業状況を確認した結果、今回のダストの上昇は、以下のことから発電所構内の作業に伴うダストの放出ではなく、発電所南側に位置する道路をダンプが通過したことにより路面の砂塵が舞い上がり、MP7近傍のダストが局所的に上昇し、それをダストモニタが検知した可能性が高いと考えている。

1号機原子炉建屋カバー解体工事においては工事エリアに設置したダストモニタに有意な上昇がなかった。

2号機、3号機がれき撤去関連の作業においても作業に伴うダストの上昇はなかった。フランジタンク解体作業についても当該時間にダストの舞い上がる作業はしておらず、かつ作業中にダストの上昇がなかった。

構内に設置した10か所の連続ダストモニタの指示値にも有意な変動はなかった。

MP7を含む8か所のMP指示値および当該ダストモニタ以外の敷地境界のダストモニタ指示値に有意な変動はなかった。

MP7近傍のダストモニタの指示値が上昇する約1時間前から南東又は南南東の風約5mが吹いている状態であり、発電所敷地外から発電所に向かって風が吹いていた。

MP7近傍をダンプが上昇した時刻頃にダンプが3台通過していた。

当該ダストモニタ「高警報」が発生した時間帯に、ダンプが上昇する作業の有無について追加調査を行ったが、発電所構内において該当する作業は確認されなかった。

また、当該ダストモニタ「高警報」が発生した時間帯に、MP7近傍を通過した車両(ダンプ3台)の汚染検査を行ったところ、スクリーニング基準値(13,000cpm)未満であることを確認した。

MP7近傍の道路等の砂塵(土埃)について分析したところ、セシウム134およびセシウム137が検出された(それ以外の核種は検出限界値未満)。

< 分析結果 >

発電所構外MP7近傍道路路面砂塵(土埃)

セシウム134: $4.7 \times 10^5 \text{Bq/kg}$ セシウム137: $2.1 \times 10^6 \text{Bq/kg}$

発電所構外MP7近傍道路路面土砂

セシウム134: $1.9 \times 10^4 \text{Bq/kg}$ セシウム137: $8.9 \times 10^4 \text{Bq/kg}$

上記の調査結果から、当該ダストモニタ「高警報」が発生した原因は、発電所構内の作業に伴うものではなく、発電所構外(南側)に位置する道路をダンプが通過した際に砂塵が舞い上がり、局所的に上昇したダンプをMP7近傍のダストモニタが検知したものと推定。なお、当該道路の砂塵(土埃)の除去等について、今後検討していく。

- ・2016/1/18 11:30 頃、構内の2号機建屋西側付近で、協力企業作業員が土嚢運搬作業を行っていたところ、土嚢とガードレールの間に左手薬指を挟み負傷。その後、入退域管理棟救急医療室にて医師の診察を受けたところ、緊急搬送の必要があると診断されたことから、12:34に救急車を要請。なお、当該作業員に意識はあり、身体に放射性物質の付着はない。

[1号機原子炉建屋カバー解体作業]

1号機原子炉建屋カバー(以下、建屋カバー)解体作業を開始。

- ・2015/5/15 6:45 ~ 5/20 13:11 建屋カバー屋根パネルからの飛散防止剤の散布作業を実施。当該作業期間中において、ダストモニタおよびモニタリングポストの値に有意な変動なし。

7/17 7:06 ~ 7/21 9:10 建屋カバー屋根パネル貫通孔からの飛散防止剤の散布作業が終了。

7/28 建屋カバー屋根パネルの取り外し作業を開始。10/5に全ての屋根パネルの取り外しが完了。

- ・2016/1/8 ~ 支障鉄骨の解体作業を開始。

[サブドレン他水処理施設の状況]

・2015/9/3 サブドレン他水処理施設運用開始。

9/17 ~ サブドレン他水処理施設による地下水のくみ上げについて、昼間のみの間欠運転から24時間連続運転に切り替え実施。

- ・一時貯水タンクFの当社および第三者機関による分析結果[採取日2016/1/5]は、同等の値であり、共に運用目標値を満足していることを確認したことから、1/17 10:03 ~ 15:39に海洋への排水を実施。排水量は802m³。

- ・一時貯水タンクGの当社および第三者機関による分析結果[採取日 2016/1/7]は、同等の値であり、共に運用目標値を満足していることを確認したことから、1/18 10:39～海洋への排水を開始。
- ・一時貯水タンクAの当社および第三者機関による分析結果[採取日 2016/1/11]は、同等の値であり、共に運用目標値を満足していることを確認したことから、1/19 に海洋へ排水予定。

【地下水バイパスの状況】

- ・地下水バイパス揚水井 No.1～12 のサンプリングを継続実施中。
- ・一時貯留タンクグループ3 の当社および第三者機関による分析の結果、共に運用値を満足していたことから、1/15 10:22～17:34 に海洋への排水を実施。排水量は 1,804m³。

【1～3号機放水路の状況】

1～3号機放水路については、1号機放水路上流側立坑および2号機放水路立坑において、セシウム 137 の濃度が上昇したことから定期的に水質調査を実施。

<最新のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【構内側溝に敷設されている耐圧ホースからの漏えいについて】

<K排水路排水口のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【H4、H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連】

<H4・H6エリア周辺、福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【タービン建屋東側の地下水調査/対策工事の実施状況】

<地下水観測孔・海水サンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

<地下貯水槽サンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以上